命よりも大切なもの

犬山・寂光院山主
松平實胤（まつだいらじついん）



【現代の世相を表わす究極の漢字一文字】

便利な時代になりました。さて「便利さ」を一文字で表現するとしたら、どんな漢字をイメージされますか。

男性に多い回答は「速」、女性に多い回答は「楽」だそうです。なるほど現代は何でも速くなりました。楽になりました。当然その分ゆとりが生まれたはずですが、しかし、現実は皮肉なものですね。便利になればなるほどそのゆとりを失っていくようです。我々はゆとりができるとその時間を有効に使おうと何か別のことをし始めます。早い話が便利になればなるほど、やることが多くなる、仕事量が多くなるということです。結果忙しくなるのです。

そこで便利さを表わす究極の漢字一文字、「忙」は如何でしょう。現代の世相を象徴していませんか。

さて、この漢字は立心編に亡と書きます。心を亡ぼす、心を亡くす、今心がここにないということです。目先のことに心を奪われ「心ここにあらざれば視れども見えず、聴けれども聞こえず、食らえどもその味を知らず（大学）」の状態と言えばよいでしょう。結果「真心」を失い、「良心」を失い、「感動する心」を失って潤いのない時代になりました。現代の世相はまさに「忙」、目先の利益と効率にのみ目が行き、本当に大切なものを見失ってしまったようです。

【生物多様性】

万人にとって一番大切なものは「命」に決まっています。誰でも「命は一個。人生は一回。生を受けたものは必ず死ぬ、いつ死ぬか分からない」。これが命の特徴です。ですから「今命あるは有り難し」、私が「今ここに元気でいられること自体」奇跡です。ですから大切なものは自分の命に決まっています。同様にこの地球には三千万種といわれる多様な生き物がそれぞれかけがえのない尊い命を生きています。

さて、仏教徒の一番大切な戒は「不殺生」です。しかし、私たち人間は微生物から動植物まで、それぞれのかけがえのない尊い命を利用せずには生きていけません。医薬医療から、衣食住のすべてを他の命に依存して暮らしています。また私どもが豊かで快適な生活を求めれば求めるほど、私どもを生かそう生かそうとして下さる天地自然、空気、水、早い話がこの環境を汚すことになります。暑い夏にエアコンは実に快適です。しかし、外気を汚し、地球の温暖化に手を貸して多様な生き物の命を脅かすことになります。到底誰もこの最重要戒「不殺生」を守ることなんて出来っこありません。

【仏さまに出会う】

間違いなく自分の命は大切です。しかし、さらに大切なものがあります。それは、私を生かそう生かそうとして下さる天地宇宙、私を支えて下さるすべての「人」「もの」、「条件」、まさに「ご縁の世界」です。これを仏教では「仏さま」と呼んでいます。

仏さまのおかげで、私は「今ある自分の命が大切だ」と実感でき、自分以外の命持てるものに優しくなれるのだと思います。これが不殺生戒の心でしょう。

命よりも大切なもの（＝仏さま）があると知ってはじめて、自分の力を過信する傲慢な私にも「生かされて生きる喜びと感謝と敬いの心」が戴けるのだと思います。